# 第14回原子力損害賠償・廃炉等支援機構
# 燃料デブリ取り出し工法評価小委員会　議事要旨

日時：令和６年10月22日（火）16:30～18:30
場所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構　大会議室

１．３号機のRPV/PCV 内部調査の検討状況

東京電力から３号機のRPV/PCV内部調査の検討状況について、説明。委員からの主な意見等は以下のとおり。

〇内部調査がどのように取り出しフェーズに繋がっていくのか、位置付けを明確にすべき。内部情報を得るためだけの調査なのか、取り出し工法のための調査なのかで選択すべきアクセスルート等も変わってくる。
〇既に実績のある調査方法を組み合わせることも検討してはどうか。新たな開発要素が少ないため、あまり時間をかけずに実施できるのではないか。例えば、１号機で使用したドローン、３号機で使用したROVの組み合わせが考えられる。
〇取り出し時と調査時のバウンダリについて、規模の違いはあるにせよ、構築方法に大きな違いはないだろう。バウンダリの構築方法の計画も示してほしい。
〇線量の再構築や映像・点群データからの 3D モデルの作成をもっと重視すべき。せっかく調査をするのであれば、その点も考慮した計画を立てるべき。
〇本日の委員会の中であったコメントを踏まえ、計画の見直しを行うこと。内部調査と今後の取り出し作業は、切っても切れない関係にあるので、今後も本小委員会に状況を報告すること。

２．３号機燃料デブリ取り出しに向けた環境改善工事の実施状況・検討状況

東京電力から３号機燃料デブリ取り出しに向けた環境改善工事の

実施状況・検討状況について、説明。
委員からの主な意見等は以下のとおり。

〇建屋撤去に要する時間はどの程度なのか。実際の大規模取り出し作業に干渉する可能性があるのか、工程の具体化を進めてほしい。
〇建屋撤去にあたっては、地下の滞留水に触れていたところとそうではないところで、汚染（浸透）の程度が大きく変わるため、その点も考慮した解体計画を立てなければならない。
〇環境整備工事の中でも、３号機 R/B１階の線量低減が極めて重要である。その際にロボットによる作業を検討してはどうか。将来に向けて、比較的線量の低い実際の現場で経験を積んでいくということも必要だろう。
〇各工事における課題は特定できているものの、課題解決のための具体的な検討状況が見えていない。工事に着手する時期すら見通せない課題についてはその旨、表明すること。また、課題解決のために、過剰な対策を取ろうとしていないか今一度考えてほしい。

（以上）